

豊島與志雄著『高尾ざんげ』解説

太宰治

青空文庫

私は先夜、眠られず、また、何の本も読みたくなくて、ある雑誌に載っていたヴァレリーの写真だけを一時間も、眺めていた。なんとという悲しい顔をしているひとだろう、切株、接穂、淘汰、まびき手入れ、その株を切って、また接穂、淘汰、まびき手入れ、しかも、それは、サロンへの奉仕でしか無い。教養とは所詮、しよせんそんなものか。このような教養人の悲しさを、私に感じさせる人は、日本では、（私が逢った人のうちでは）豊島先生以外のお方は無かった。豊島先生は、いつも会場の薄暗い隅にいて、そうして微笑していらつしやる。しかし、先生にとって、善人と言われるほど大いなる苦痛は無いのではないかと思われる。そこで、深夜の酔歩がは

じまる。水甕みずがめのお家をあこがれる。教養人は、弱くてだらしない、と言われている。ひとから招待されても、それを断ることが、できない種属のように思われている。教養人は、スプーンで、林檎りんごを割る。それにはなにも意味がないのだ。比喻ひゆでもないのだ。ある武士的な文豪は、台所の庖ほう丁ちようでスパリと林檎を割って、そうして、得意のようである。はなはだしきは、鉈なたでもって林檎を一刀両断、これを見よ、亀井などという仁じんは感涙にむせぶ。

どだい、教養というものを知らないのだ。象徴と、比喻と、ごちやまぜにしているのである。比喻というものは、こうこうこうだから似ているじゃねえか、そつくりじゃねえか、笑わせやがる、そうして大笑い。それだけのものなのである。しかし、象徴とい

うものはスプーンで林檎を割る。なんの意味もない。まったくなんの意味もないのだ。空が青い。なんの意味もない。雲が流れる。なんの意味もない。それだけなのである。それに意味づける教師たちは、比喩だけを知っていて、象徴を知らない。そうして、生徒たちが、その教師の教えを信奉し、比喩だけを知っていて、象徴を知らない。ほんとうの教養人というものは、自然に、象徴というものを体得しているようである。馬鹿な議論をしない。二階の窓から、そとを通るひとをぼんやり見ている。そうして、私たちのように、その人物にしつこい興味など持たない。彼は、ただ見ている。猫が、だるそうにやってくる。それを阿呆みたいに抱きかかえる。一言にしていえば、アニユイ。

音楽家で言えば、シヨパンでもあろうか。日本の浪花節なにわぶしみた
いな、また、講釈師みたいな、勇壮活潑な作家たちには、まるで
理解ができないのではあるまいか。おそらく、豊島先生は、いち
ども、そんな勇壮活潑な、喧嘩けんかみたいなことを、なされたことは
ないのであるまいか。いつも、負けてばかり、そうして、苦笑
してばかりいらつしやるのではあるまいか。まるで教養人の弱み
であり、欠点でもあるように思われる。

しかし、この頃、教養人は、強くならなければならぬ、と私
は思うようになった。いわゆる車夫馬丁にたいしても、「馬鹿野
郎」と、言えるくらいに、私はなりたいと思っている。できるか
どうか。ひとから先生と言われただけでも、ひどく狼狽ろうばいする私

たち、そのことが、ただ永遠の憧れあこがに終るのかも知れないが。

教養人というものは、どうしてこんなに頼りないものなのだろう。ヴィタリテイというものがまったく、全然ないのだもの。

ああ、先生も、私と同様に、だらしがない。

そうして、日本で、いちばんの教養人だつてさ。

最後に、末筆で失礼であるが、私は、学生時代、先生にひどいお世話になったことを、附記しておかねばならぬ。そうしてそれは、いつも、私の遠い悲しい思い出になっている。

青空文庫情報

底本：「もの思う葦」新潮文庫、新潮社

1980（昭和55）年9月25日発行

1998（平成10）年10月15日39刷

入力：蔣龍

校正：今井忠夫

2004年6月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

豊島與志雄著『高尾ざんげ』解説

太宰治

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>